

営農情報



詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

東尾道営農センター ☎0848-56-1231	浦 崎 支 店 ☎0848-73-3311
尾道北営農センター ☎0848-29-9611	御 調 支 店 ☎0848-76-2242
向島営農センター ☎0848-44-2106	甲 山 支 店 ☎0847-25-5035
因島営農センター ☎0845-25-6161	世 羅 西 支 店 ☎0847-37-7100
世羅営農センター ☎0847-25-5029	東 生 口 出 張 所 ☎0845-28-0211

水 稲

早生品種では、すでに田植えを終えている圃場がほとんどだと思います。これからの水管理に十分注意し、高温等の異常気象に耐えるためにも強い稲を作りましょう。

また、南部地域の中生以降の品種では、今からが田植えの最盛期となります。箱処理剤と一発除草剤の誤使用には十分注意してください。

【水管理】

田植え後の水管理は、苗の活着や初期

成育にとって、重要な管理ポイントです。田植えから中干しまでの水管理は次の通りです。

◆田植え後～活着まで

寒冷地では田植時期の平均気温が低い
ため、水の保温効果を生かした初期管理
が重要となります。寒冷地での一般的な
水管理は、低温・強風の場合には深水と
します。

活着期に低温が予測される場合は、日
中は3〜4cm(株元が隠れるくらい)で止
水し水温を上昇させ、夕方に入水して夜
間は5〜6cm(通常の湛水深とすること
で、活着までの水温を高く維持しやす
くなります。

植え傷みによって活着が遅れることが
多いので、活着するまで深水管理とし、
その後浅水管理とします。

◆活着後

活着後、分けつ期に入ります。寒冷地
では、有効分けつ数を早期に確保するこ
とがポイントです。そのため、有効分け
つ終止期まで、浅水管理などによって水
温を高くするように努めましょう。

【生理障害】

◆赤枯症

赤枯症は病気ではなく、根がストレス
を受けていることのサインです。症状と
しては、葉に赤褐色の斑点が多数できま
す。田のガス湧き等により、根の養分吸収

が阻害されることで発生しています。

このような場合は、落水して田を干し、
土壌中に酸素を供給するとともに、停滞
水を除去します。これによって土層を酸
化的にさせ、有害物質の発生を抑えるこ
とができます。

また、豊土サンブリー
ン(追肥用)5kg/10a等
を施用することで緩和す
ることもできます。

◆硫黄欠乏症

管内で硫黄欠乏症による初期生育停滞
および葉の黄化が確認されています。こ
の症状も赤枯症と同様に土壌還元剤の発生
により起こると考えられています。

対策としては、赤枯症と同様に落水し
て田を干す等、停滞水を除去したり、硫
黄含有で水によく溶け
る「畑のカルシウム」
20kg/10a等を施用す
ることで緩和すること
ができます。

【病害虫】

梅雨に入ると、いもち病が発生しやす
くなります。

発生しやすい気象条件
としては、曇雨天日数が
多く、風が弱くどんより
とした天候ほど発生が多
くなります。



▲いもち病



▲イオウ欠乏症



▲赤枯症

また、ウンカやコブノメイガなどの飛
来害虫にも注意が必要です。



▲コブノメイガ



▲コブノメイガ被害



▲秋ウンカ被害

柑 橘

本年度の温州ミカンには豊作樹が多くなっ
ています。隔年結果防止対策を徹底しま
しょう。また、灰色カビ病やアザミウマ
被害にも注意しましょう。

【病害虫防除】

◆ミカンサビダニ・チャノホコリダニ

サビダニ、ホコリダニは葉の上で増殖
し、果実へ移動してきます。落弁期にア
グリメック又はサンマイルト水和剤で防除
しましょう。



▲サビダニ被害果
(果実が茶色・黒く
変色する)



▲ホコリダニ
(果実が灰色になる)

◆アザミウマ類

近年、アザミウマ被害による正品率低
下が問題となっています。毎年被害が出

る園地は、6月10日頃にスピノエースフロアブルを追加散布しましょう。



▲アザミウマ被害果（開花期はヘタ周りにリング状の傷が出来る）

なお、レモンのアザミウマ被害は6月中旬と7月上旬に防除が必要です。



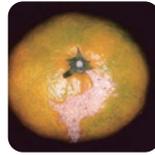
▲レモンアザミウマ被害



▲遅れ花にアザミウマが寄生するこのような状態になると果実被害に注意

◆灰色カビ病

温州ミカン、安政柑、清見で被害が多い病気です。安政柑の外観が悪い園地は、果実上の花びらを落としてやる



▲灰色カビ病

◆黒点病

黒点病防除薬剤のジマンダイセンは、散布後1カ月または降雨250mmを超える前に次の防除をする必要があります。アピオンEの混用や霧なしノズルなどを使用すると薬剤の残効期間が長くなります。枯れ枝が発生源となるので、梅雨入りに枯れ枝除去を徹底しましょう。

◆カイガラムシ

昨年の少雨と秋の高温の影響でカイガ

ラムシの発生が多くなっています。トランスフォームフロアブルで防除しましょう。

◆かいよう病

レモン、ネーブルなどの園地でかいよう病多発園地では、5月下旬にも防除が必要です。健全部位への感染防止目的で薬剤散布します。殺菌効



▲かいよう病

◆カミキリ虫対策

昨年度はカミキリムシ被害により、枯死した樹が多くありました。多発園ではモスピラン顆粒水溶剤400倍を主幹から株元へ散布しましょう。

【夏肥の施用】

中晩柑の大玉生産には、夏肥の施用が重要です。適期適量施肥を心がけましょう。中晩柑類といじは、1回の施肥で2回分の効果が期待できるBB元気が200がおすすです。中晩柑一発肥料を使用した園地でも葉色が悪い場合は追肥しましょう。

【苦土資材の施用】

苦土欠乏症状がみられる園地では、6月中旬頃にスーパーマグを10a当たり60



▲苦土欠乏（緑色の部分がくさび形に見えるのが特徴）

kg施用しましょう。

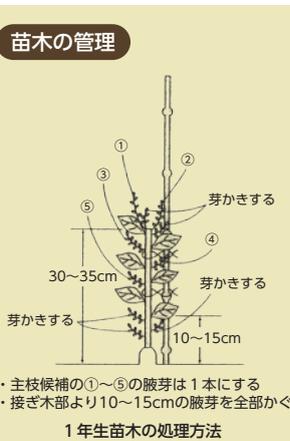
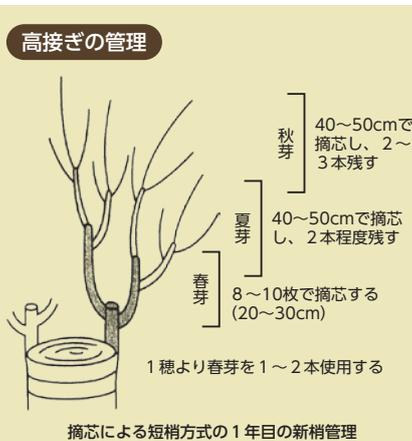
【葉面散布】

落葉が多かった園地では、新芽の充実を図るため元氣一番を防除に混用散布しましょう。

みかんでは、緑化促進目的で落弁期防除には尿素とマグミーフEを混用散布しましょう。

【高接ぎ樹・苗木の管理】

枝数が多くなりすぎないように、芽かきを行います。高接ぎ樹では、葉8〜12



枚で摘心を行います。支柱を使って誘引を行い、アブラムシやミカンハモグリガの発生に注意を払います。1年生苗木にはアクタラ粒剤を使用すると、防除の省力化が図れます。また、10日おきに元氣一番を散布すると早く大きくなります。

開花後の乾燥は生理落果を助長します。特にいじは生理落果しやすいので、雨が降らない場合は灌水を徹底しましょう。

【灌水】

【摘果剤の散布】

摘果の省力化目的で、落としたい部分にチーム水溶剤1、000倍とマシン油150倍を混用し散布します。気温が25℃以上の日が数日続く時を狙って散布しましょう。

【花母枝の剪定】

直花しかついで花母枝を花母枝といいますが、八朔の花母枝は、開花後枯れ枝になることが多いので除去しましょう。

【温州ミカンの隔年結果防止対策】

蕾が小豆大くらいになったところに枝別に実施します。

【摘果】

【枝別摘果】

6月下旬までに枝別摘果を実施すると、



▲花母枝（直花が団子状についた枝）はもとから除去する

摘果した枝は次年年度確実に着花します。

◆樹冠上部1／3摘果

7月上旬までに樹の上1／3の果実を全摘果すると、隔年結果を是正することができます。

落葉果樹

本年度は例年に比べ果樹全般で開花が遅く、生育の遅れが見られます。雨の日も多い予想となっていますので、防除の遅れには十分注意してください。

ぶどう

〔ハウス栽培(果粒肥大期)〜収穫期)〕

◆収穫

デラウェアの早期加温栽培では、いよいよ収穫です。酸抜けに注意し適期収穫を心掛けましょう。

◆温度管理

この時期はハウス内の温度が高くなり、日中30℃を超える高温は、着色に悪影響を与えます。また、一日の気温変化が大きい時期ですので、ハウス内の急な気温上昇による高温障害を起こさないように注意しましょう。

風通しを良くし、換気を行い、25〜28℃を保つようにしてください。

◆摘粒・摘房

・デラウェア

無理な着荷負担は熟れにくくなるだけでなく、樹勢が低下し樹の寿命を短くします。着果負荷が大きい樹は、着果量の修正をしてください。

・ピオーネ

小粒果・変形果・病害虫傷害果をはずした後に込み合いそうな部分・内向きの粒をはずして一房当たり30〜35粒になるよう調整してください。このとき、房の肩部分は上向き粒を、中段部分は横向き粒を、房尻は下向き粒を残すよう心掛けましょう。摘粒や摘房は、第2回目のジベレリン処理までに終らせるようにし、その後、随時修正を行うようにしてください。

◆灌水

果実肥大期の乾燥は、肥大不足・着色期の裂果、遅伸びしやすいため、十分灌水しましょう。

また、着色期から収穫期はやや乾燥気味に管理しますが、樹勢の弱い園では定期的に灌水を行って、樹勢を維持してください。乾燥させすぎるとは適度に灌水を行った方が、酸抜けが進み、熟期の促進にもつながります。

〔露地栽培(新梢伸長期)〜ジベレリン処理期(開花期)〕

◆新梢管理

新梢と花穂との養分競合を避け、実止まりを良好にするために開花前に摘心を行います。また、新梢を誘引することで、新梢の先端を下げ、果房に流れる養分量を増やし果粒肥大を促進させましょう。

◆ジベレリン処理

1回目の種なし処理は、展葉始めからの日数・展葉枚数等を参考に、花穂の進み具合をみながら処理をしていきます。特に、ジベレリン処理前後1週間の気象条件(温度・日照)が、花穂の進みや実止まりに大きく影響しますので注意して観察してください。二回目は玉肥大のために行います。さび果とならないよう、天氣の安定した日を狙って行いましょう。

◆摘粒

果実肥大促進や房型をつくるためにも、実止まりが確認でき次第でできるだけ早く取りかかることが重要です。

小粒果や奇形果、病害虫被害果などを優先的に摘粒し、1房当たりの適正着粒数になるようにしてください。

また、開花やジベレリン処理袋かけの前後では、防除の徹底を心がけてください。

もも

〔新梢管理〕

日当たりが悪くなると、果実品質が低下する原因となるので、ねん枝や摘心を行います。

主枝の日焼け防止や側枝更新予定の枝は、ねん枝で伸長を抑えます。5月下旬〜6月上旬が適期です。

伸長が旺盛な枝は、3〜5葉残して摘心します。新梢伸長の旺盛な6月〜7月に行いますが、6月中旬頃までに行くと、花芽が着生した副梢が発生して、翌年の結果枝に使うことができます。

〔袋掛け〕

袋掛けには、病害虫の被害を防ぐ、着色を良くする、裂果が軽減されるなどの効果があります。必ず行いましょう。

袋掛け前には必ず防除をしましょう。

袋掛け前には見直し摘果を行い、適正着果量にしましょう。また、摘果した果実は病害の発生へつながるので、必ず園外へ持ち出してください。

◆注意する病害虫

アブラムシ類、シンクイムシ類、モモ



▲アブラムシ



▲シンクイムシ

ハモグリガ、灰星病、黒星病、桃果実赤点病

いちじく

【摘心】

葉や枝の伸長等の栄養生長から、果実肥大・成熟等の生殖生長に促すために、摘心を行います。展葉10〜12枚の時点で先端を摘み取ります。その後、発生する副梢は随時かぎ取りしましょう。

【ねん枝・誘引】

樹冠内部が混むと、葉ズレによる傷果、着色不良果が多くなるので、ねん枝や誘引を行います。

樹冠内部が混みすぎている場合は、枝を間引いて日当たりをよくしましょう。

◆注意する病害虫

イチジクモンサビ
ダニ、アザミウマ類、
カミキリムシ類、イ
チジクヒトリモド
キ、そうか病



▲キボシカミキリ

家庭菜園

5月に入り気温も高くなってきました。水分補給などの暑さ対策を十分行って菜園作業を楽しみましょう。

【灌水】

定植直後は、極端に乾かないように注意し、少しずつ灌水を行います。活着後は、根が下方へ深く張るように灌水を控えます。

気温が上昇し、収穫期に入ると再びこまめな灌水を開始します。

気温が高い時期は、早朝に灌水を行います。

【追肥】

表1の追肥の時期や施用量はあくまで目安です。生育状態をよく観察して、追肥の有無や施用量を決定しましょう。

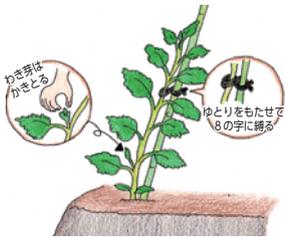
表1 追肥の時期と1株当たりの施用量の目安

トマト	1回目は、第1果がピンポン玉くらいの時、2回目はその20日後(10g)
ピーマン	1番果収穫より始めて15〜20日おき(10g)
ナス	1番果収穫より始めて15〜20日おき(15g)
キュウリ	1番果収穫より始めて10日おき(10g)

【整枝作業】

◆トマト

わき芽はすべて5cmぐらゐの大きさまで(1)手で取り除いて、主枝一本とします。作業はなるべく晴天に行いましょう。



但し、草勢が強すぎる場合は、わき芽をある程度大きくしてから取り除きます。

収穫の目標段数まで達したら、日よけの葉を2〜3枚残して主枝の芯を止めます。

◆ナス

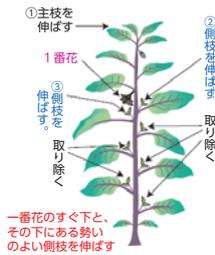
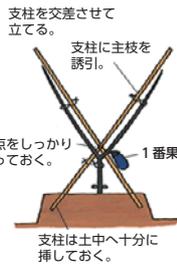
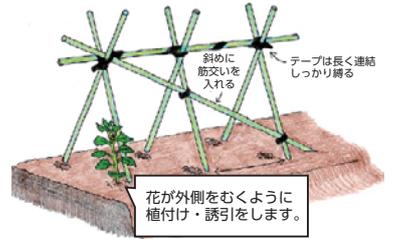
一番花の直下とその下のわき芽、もしくは一番花の上下のわき芽を伸ばして3本仕立てとします。

これより下のわき芽はすべて取り除きます。

◆ピーマン

一番花より下のわき芽はすべて取り除きます。

その後は放任とし、内向きの細い枝を適度に間引きます。



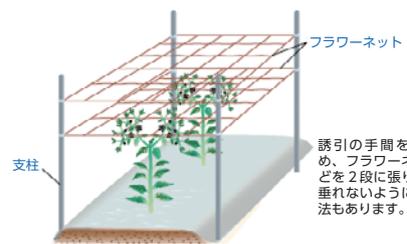
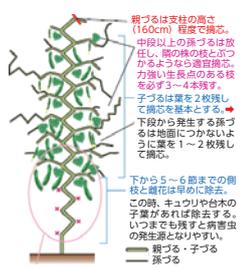
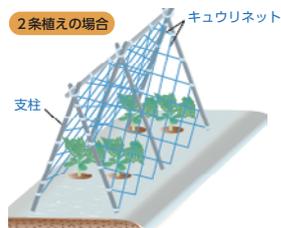
◆キュウリ

株元4〜5節までの子づると雌花は取り除き、6節以上から着果させます。子づると孫づるとは葉を2枚残して芯を止めます。親づるとは支柱のてっぺんまで伸びたら摘心します。

【摘果・摘葉】

生育がよくないのに早くから実がつくと、ますます株が弱ります。樹勢が弱い場合は、実を早めに摘み取ります。

枯れた葉、病害虫に侵された葉は早めに摘み取りましょう。



誘引の手間を省くため、フラワーネットなどを2段に張り、枝が垂れないようにする方法もあります。